

- 1 演習名 産業発展論(川端)演習
- 2 テーマ ケース・スタディで見る企業と産業のダイナミズム。産業発展論(Industrial Development)は、時間の経過に即した産業の変化を取り扱う科目です。
- 3 テキスト まず産業研究の方法と日本経済の現状について、難しくないテキストで学びます。新刊を使うこともあるので未定ですが(この原稿は9月に書いています)、決まり次第ホームページで発表します。
- 4 趣旨
 - * 産業経済のレポート・論文を書けるようになる。
 - 様々な産業を取り扱います。これまでの卒業生の演習論文テーマは、飲料容器リサイクル、放送メディア、成果主義人事管理、家電流通、mp3 ファイル交換問題、宮城県の産業構造、戦後日本半導体産業論、自動車生産システムの海外移転、自動車用燃料電池となっています。エリアは先進国でも途上国でも構いません。
 - * フィールド調査に出かけよう。
 - トヨタ、日産、東北イノベーションキャピタルなど様々な企業を訪問しています。
 - * OB・OGと交流しよう。
 - 当ゼミは「工業経済学」ゼミを改称したものです。前任教授時代から続く工経ゼミOB・OG会があり、現代産業研究会(ホームページ参照)や新人歓迎懇親会を行っています。
- 5 募集人員 学部のルールにより、9人まで受け入れます(編入生は別枠)。
- 6 参加条件 無断欠席をしないこと。学外での取材に参加すること。メール、ブラウザ、オフィスソフトをそこそこ使えること。ゼミに入ってから学んでもまにあいます。2006年度基本専門科目「企業論」も受講すること。経済数学は必要ありませんが、文章を読みこなす力は必要です。

- 7 選考方法 希望者が9人を越える場合は選抜を行います。
- 8 運営方針 *ゼミの進め方は二つのパターンがあります。
 テキストの輪読。レポーターが報告し、全員で議論する。
 各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論する。
 *調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に発行します。バックナンバーの目次はホームページを参照。
 学生の研究計画に書籍・機材等を支援します。
- 9 担当教員の主要な研究業績 著書：大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略』（日本評論社、2003年）。植草益ほか編『日本の産業システム2 素材産業の新展開』（共著：NTT出版、2004年）など。
 調査報告：ベトナム鉄鋼業、日系メーカーのタイ進出、山西省の産業と環境、韓国自動車産業など。
 翻訳：W・アダムス&J・ブロック『現代アメリカ産業論 第10版』（共訳：創風社、2002年）など。
 社会貢献：国際協力機構（JICA）のベトナム市場経済化支援プロジェクトに参加（2000-3年度）。
- 10 指導教官が薦める本 春休みに、4月に使用するテキストを読み、レポートを提出してください。
- 11 ゼミ見学の可否 歓迎します。14時40分までに第15演習室に来てください。質問はメールでも受け付けます。
- 12 新3年生に対してひとこと ややハードであることは否めませんが、それぞれにとって何か新しいものが見つかるゼミにしたいと思います。
- 13 その他 ホームページを見て、自分の関心とゼミの予想される内容をよく照らし合わせてください。メールによる問い合わせも受け付けます。
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm>
kawabata@econ.tohoku.ac.jp